

大富幼稚園 保育研修会

令和3年7月2日（金）

<保育者> 5歳児担任 増田 智昭 教諭 橋本 有美 補助教諭

<研修テーマ> 友達と思いを伝え合いながら夢中になって遊ぶ子にするための環境や援助の工夫をする

<ねらい> ・おばけ屋敷で使うものを考えて、友達や教師と一緒に作ることを楽しむ。

活動のひとこま ～友達といっしょに～



外は大雨で大好きな水遊びができませんが、すみれ組の子どもたちは、多目的室に集まってみんなでおばけ屋敷作りを楽しんでいます。「お化け屋敷には、お墓があるから作ろう!」「看板も怖くしようよ」と、思いをもって取り組みます。保育者は、そんな子どもたち一人一人の思いを受け止めながら、友達をつなげる言葉掛けをしていきます。一人で看板作りをしている子の「疲れたな」の声を拾い「だれかに手伝ってもらおうか」と声を掛けると、すぐに協力してくれる子が集まり、みんなで楽しく作り出しました。

「おばけやしき」
って書ける?



一文字ずつ
順番に書こうよ

看板の文字も友達と順番に書きました。
遊びの中で楽しみながら、文字に興味をもっていきます。



おばけ屋敷の
出来上がり～

みんなで作ったお化け屋敷に一人ずつ入ってみました。暗くして怖いBGMをかけて雰囲気を出しています。「今後は、年中クラスを招待したいね」と話しました。

事後研修会（講師：静大教授 田宮 縁氏）

- ・保育にとって、人的環境が一番大事。大人がわくわくしなければ、子どもたちはわくわくしない。保育者が楽しくなかったら、保育は楽しいものではなくなってしまう。お化け屋敷のような非体験のものはイメージがつきにくいですが、イメージの共有はそこまで重要ではなく、子どもが夢中になって遊んでいることが大切である。
- ・園で収穫したジャガイモの数、看板の文字など、必要感に基づく学びを保育の中で楽しみながら、取り入れていきたい。



事後研修会では、保幼小、公私様々な立場からの視点で、熱心な協議が行われました。